

PRAEVIDENTIA DAILY (11月6日)

昨日までの世界：ドル反発、115円に接近

昨日は、東京時間午後以降に米ドルが対主要通貨で反発する展開となり、米経済指標面でも ADP 民間雇用統計が+23.0万人と市場予想を若干上回ったこともあって、ドルが続伸、ドル/円が一時 114.84円と 115円に迫る上昇となったほか、米株高にも拘らず豪ドルや NZ ドルが大幅に下落、カナダドルも原油価格が大幅反発したにも拘らず対米ドルで下落するなど、米ドルの堅調が特徴的な展開だった。なお、米 ISM 非製造業景況指数は 57.1 と前月および市場予想を下回ったことから、米ドルが若干反落する局面がみられたが、雇用統計との関係で注目度が高い内訳指数である雇用指数は 59.6 と前月の 58.5 から更に改善しており、こちらはドルにとってポジティブなはずだ。

米ドル高の背景として米中間選挙で上下両院とも共和党が過半数議席を獲得したことが一因となったようだ。概ね予想通りの結果ではあるが、共和党は親ビジネス的であることから株高をもたらしたことが米ドル高に繋がったようで、民主党 Obama 大統領との間のねじれ状態ではあるが、次回大統領選を睨み責任野党としての議会対策が予想され政府閉鎖回避など最悪の事態がむしろ避けられるとの期待感もあるかもしれない。

ユーロは、前日にバランスシート拡大策を巡る ECB 内の不協和音報道が流れた後、昨日は Draghi 総裁辞任説まで流れたようだが、本日の ECB 政策理事会を控えて追加緩和への警戒感もありユーロは対ドルなどで反落した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.9	+0.00	+0.01	+0.01	-0.02	+0.00	+0.02	+0.6	+0.4	+2.0	+0.5
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.5	-0.01	-0.01	+0.01	+0.01	+0.02	+0.00	+1.7	+0.6	+0.5	-0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	+0.02	+0.02	+0.01	+0.03	+0.03	+0.00	+1.3	+0.6		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-1.7	-0.04	-0.03	+0.01	-0.04	-0.04	+0.00	+0.6	-0.5	+0.3	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-1.1	-0.01	+0.00	+0.01	+0.02	+0.02	+0.00	+0.6	-0.5	+0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.2	-0.02	+0.01	+0.02	-0.02	+0.00	+0.02	+0.6	+2.0	+0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：日欧の底辺への競争

きょうの注目通貨：EUR/USD ↑、EUR/JPY ↑

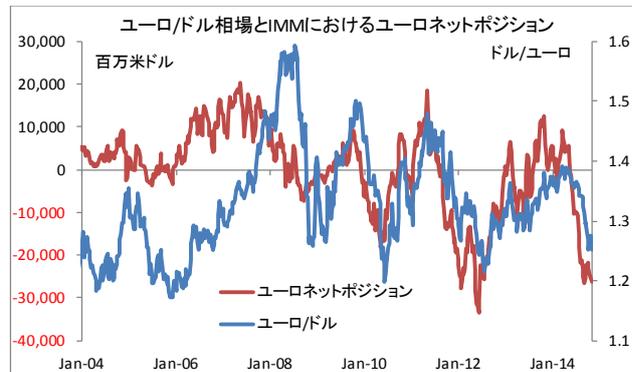
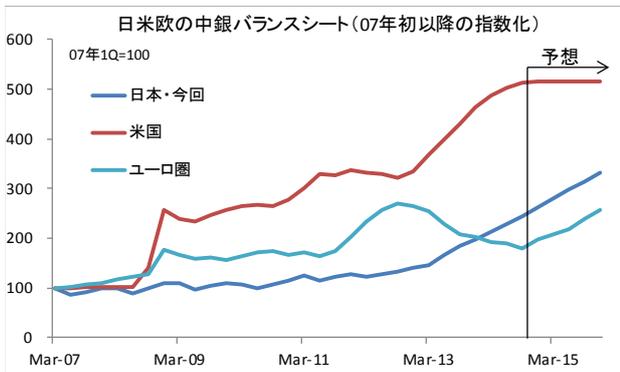
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 10 月新規雇用者数	9 : 30	-2.97 万人	+1.0 万人	
同失業率		6.1%	6.1%	
英 9 月鉱工業生産・前月比	18 : 30	0.0%	+0.4%	
BoE 金融政策委員会	21 : 00	0.5%	0.5%	
ECB 政策理事会	21 : 45	0.05%	0.05%	
Draghi 総裁定例記者会見	22 : 30			
カナダ 9 月建設許可件数・前月比	22 : 30	-27.3%	+6.0%	
Evans シカゴ連銀総裁発言	24 : 40			ハト派、来年は投票権あり
Powell・FRB 理事発言	3 : 30			中立、投票権あり

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は ECB 政策理事会が注目される。日銀の予防的なサプライズ追加緩和決定を受けて、ECB も追加緩和を早期に決定する可能性が高まった面もあり、これまでも量的緩和導入期待は根強かったが、現在でも 4 半期に 1 回の TLTRO (テルトロ) を通じた資金供給拡大 (2016 年央までに総額 1 兆ユーロ程度を想定) と、ABS・カバード債購入が 11 月に開始される見込み (2 年間で総額 1 兆ユーロを想定) となるなど、各種緩和策が徐々に実施されている途中である中、一昨日の ECB 内部でのバランスシート規模拡大目標表明に関する意見の相違報道もあって、国債を大量に購入する量的緩和措置の導入に関して議論が進展する可能性は低そうだ。資産購入額は ECB が想定している額に達しないリスクがあり、その場合にはバランスシート拡大ペースは鈍化するが、ECB の想定を基にしたバランスシート拡大ペースは日銀とほぼ同程度となる (下図を参照)。Draghi 総裁記者会見で量的緩和導入が目先なさそうだとの見方が広がると、既に量的緩和期待から大幅なショートが造成されているユーロは買戻されるリスクが高まっている (下図を参照)。この場合、短期的にはユーロは対ドルのみならず対円でも上昇し易くなるだろう。

ドル/円は日米材料が少ない中で、ECB 政策理事会を受けたユーロ/ドル相場の動きの影響を受けそうだが、上昇基調は維持されるとみられ、115 円台乗せもありそうだ。

豪雇用統計は通常振れが大きい重要統計であるため、発表後に豪ドルが大きく動くが、最近豪雇用統計あ集計方法の変更等でトレンドが読みにくくなっているとされ、今回の結果は持続的な影響をもたないとみられる。むしろ、米ドルの全体的な方向性の方が、豪ドル/米ドル相場にとっては鍵となりそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者 (投資助言・代理業) 関東財務局長 (金商) 第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641